

## 平成26年7月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成26年7月28日(月) 午後1時30分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室
- 3 委員氏名
- |          |         |
|----------|---------|
| 委員長      | 武 輪 節 子 |
| 委員長職務代行者 | 築 瀬 眞知雄 |
| 委員       | 岡 本 潤 子 |
| 委員       | 大 庭 文 武 |
| 教育長      | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- |              |              |
|--------------|--------------|
| 教育部長         | 佐 藤 浩 志      |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男      |
| 教育部次長        | 嶋 脇 郁 夫      |
| 図書館長兼市史編纂室長  | 藤 田 俊 雄      |
| 学校教育課長       | 齋 藤 信 哉      |
| 教育指導課長       | 正部家 光 彦 (欠席) |
| 社会教育課長       | 田 中 勉        |
| 是川縄文館副館長     | 前 田 美智子      |
| 総合教育センター所長   | 木 村 一 夫      |
| 博物館副館長       | 小笠原 善 範      |
| 図書館副館長       | 千 葉 玲 子      |
| 教育総務課参事      | 尾 崎 雅 祥      |
| 学校教育課参事      | 茨 島 隆        |
| 東地区給食センター所長  | 中 里 親 弘      |
| 西地区給食センター所長  | 清 川 彦 一      |
| 博物館参事        | 古 里 淳        |
| 教育総務課主幹      | 松 橋 洋        |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

武輪委員長	<p>ただいまから、平成26年7月の教育委員会定例会を開会いたします。  本日の議事録署名は岡本委員を指定いたします。  それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いいたします。</p>
伊藤教育長	(資料に基づき説明)
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>それでは、これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。はじめに、議案第35号「市立学校の統合について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
齋藤学校教育課長	(議案第35号「市立学校の統合について」に基づき説明)
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。</p>
大庭委員	<p>ここまでの経過を見ると非常に丁寧に対応していただいて、ここに至っているというふうに考えています。あとは、統合にあたっての要望事項、特に松館小学校の生徒たちのケア、あるいは学校の文化、財産をできるだけ要望に沿った形で対応していただければと思います。</p>
築瀬委員	<p>同じようにやむを得ないものと考えますけれども、先ほど教育長から話があったように、学校教育課を中心とした事務局の皆さん、本当にご苦労様でした。また、先ほど教育長から、苦渋の決断という言葉がありました。特に松館学区は昔から学校を中心とした地域ということで、学校が無くなるというのは非常に寂しい思いがあると思います。また、ご存知のように、松館小学校付近はダンプカーなどの大型車両の通行が多い反面、一步入ると山ということで、低学年の子どもたちの通学が心配な区域でもあることから、要望事項にあることを最大限活かしてほしいと思います。また、地域の宝であるという気持ちはどこの学区でも同じですが、特に松館学区はそれが強いので、そういった地域の宝をできる限り保存・継承していきたいという要望もあるようですので、是非そういった点を配慮していただければ有り難いと思います。</p>

岡本委員	<p>何年もかかってここまで来ているんですけども、最初私は一市民として、このやり方を聞いたときには実は疑問もありました。しかしながら、一つ一つ丁寧にやっていく過程を拝見したり、その都度報告をいただいたり、そのプロセスをずっと見てきて、やはりそれは間違いではなかったなと思っております。内容に関しても、お互いがこのような結果で大変よかったなと、市民の皆様にもご理解いただけるかなと思います。この過程を大事にするという姿勢は、今後ともいろいろな場面で貫きたいものと考えております。</p>
武輪委員長	<p>私も皆さんと同じ意見でございます。また、この松館地区の地域の方々を大事にさせていただきたいなと思います。今までですと、運動会とか、いろいろな行事において、子どもたちと一緒に地域の方々も過ごしてこられたと思います。これから運動会などの行事で、新井田小学校に行きづらかったりということもあるかと思いますが、子どもたちだけでなく松館地区の地域ということも大事にして考えていきたいと思っております。</p>
武輪委員長	<p>それでは、議案第 35 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
武輪委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第 35 号を原案のとおり決定いたします。</p>
武輪委員長	<p>次に、議案第 36 号「平成 27 年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
嶋脇次長	<p>(議案第 36 号「平成 27 年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。</p>
武輪委員長	<p>個々に応じてということになりますと、例えば同じ学年でもその子によって教科書が違うということも有り得るのでしょうか。個々に教科書が違うという認識でよろしいですか。</p>
嶋脇次長	<p>子どもによって得意な部分があります。例えば、算数はかなり得意で割りと当該学年と近いものでもこなせる場合もありますけれども、国語は分からなくてという場合もございますので、その子に応じたものを使うということです。</p>

武輪委員長	<p>それでは、議案第 36 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
武輪委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第 36 号を原案のとおり決定いたします。</p>
武輪委員長	<p>以上で議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項に参ります。初めに「平成 26 年度第 1 四半期の業務報告について」は、事前に資料が配付されておりますので、委員の皆さんから質問がございましたらお願いいたします。</p>
築瀬委員	<p>8 ページの教育指導課のマイブック推進事業ですが、子どもたちや保護者、市民の関心も高い部分で、非常に良い取組だということで、県内の新聞だけでなく東北地方の新聞にも取り上げられています。そういったことが、各書店でも掲示されています。かなり注目されているなと思って、大変良い取組だと思っています。</p> <p>そこで、4 つ目のポツところに、担当指導主事が出向いて書店の声を聞いたとありまして、事例も挙がっています。現時点ではこのような声について、今後どのように処理していくと考えているのか、予定等あったらお話いただきたいと思っております。</p>
嘉瀬教育指導課 実践支援GL	<p>今お話があったように大変注目が高いようで、様々問合せ等が入っております。担当が書店を回って実際の様子を観察してお話を聞くなどしてきた結果、課題として 1 番挙げられているのが、買える本の規定が曖昧だということです。最初は学校の読書活動、自宅での読書活動に使えるものというふうな説明をしていたのですが、本の種類が様々でなかなか判断が難しいところがあるので、少し整理をしていただきたいというお話がきております。それに関しては、今年度は通常の読書活動ということの他に、学力向上のためと言いますか、参考書や問題集などのテキスト類は不可というラインを出したり、完全に辞書になっているものは不可というラインを出したりといこうことで、現在調整をしているところです。今年度、最終的にはアンケートを取りまして、それを基にまた協議をして来年の方向性については決めていきたいと考えております。</p> <p>あと、クーポンの使い方のところで、クーポンは 500 円の 4 枚綴りなんですけど、例えば 1,400 円の本を買うときに、子どもがクーポンを 3 枚出して 100 円のおつりはいりませんというようなことがよくあると聞いております。学校を通して、その場合はクーポン 2 枚と差額をお金で支払って、残ったクーポンは是非 2 冊目</p>

<p>築瀬委員</p>	<p>に使ってほしいということで周知していきたいと考えております。</p> <p>やはり、やってみると様々課題が出るものだなと思って今も聞いていました。私も時々各書店の様子を見ているんですけども、例えばある書店では、ブッククーポンを利用した子どもたちに「僕・私のおすすめの本」という題名でアンケートを取って、その生の字で書いた声を掲示して、そしてそれに対して店員さんが答えているんです。店員さんが、子どもたちがおすすめする本を実際に読んでみましたと、そしたらとても面白くてびっくりしましたというような声を返してくれて、その2つを一緒に掲示しているんです。そういった書店もあって、それを見たときに、ほのぼのとした感じといいますか、1冊の本によって交流が生まれたなとちょっと嬉しくなりました。商売は別にして、1冊の本を通して自分の世界だけではなく人にも広がっていく。あるいは子どもから大人への影響もあるということも感じて、とても良い取組だなと思いました。各書店によって取り組み方に違いはあるんですけども、反省材料とともにこういった良い取組については評価していただいて、次に活かしていただきたいなと思っております。</p> <p>それから良いなと思ったのが、参考図書一覧にある「ユタとふしぎな仲間たち」の作家三浦哲郎は郷土の作家ですよと紹介しているところもありました。読書に親しむ環境づくりというこの事業の目的の達成だけではなくて、小林市長の公約にある「本のまち八戸」ということでも非常に効果があるなと思っています。</p> <p>あと1点、今のは参加書店からの声だったんですが、これから各学校にアンケートを取るという話があって、あまり細かいアンケートで負担にならないようにしてほしいというお話もしましたが、今後、保護者の声を聞く予定はあるんでしょうか。</p>
<p>嘉瀬教育指導課 実践支援GL</p>	<p>アンケートの具体的な中身についてはまだ詰めていないところですが、是非先生、保護者、あるいは実際に本を買った子どもたちの声等も大事にして、来年度に繋げていきたいと思えます。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございます。なぜ保護者と言ったかという、前にもお話ししたんですが、推薦図書というと、あくまでも参考ですよという書き方をしても、市の教育委員会が推薦したということで、保護者はどうしても推薦図書を買わなければいけないのではないかということを行っているんです。違いますよというふうに私の方で話したことも何回もあるんですけども、そういう率直なところを聞いて、例えば推薦という表現をやめて参考図書ぐらいにするとか、あるいは具体的な本の名前を出すのではなくて、宇宙の話、体の話とか、あなたの興味を持っているものはなんですかとか、それに関する本を探してみましようとか、そういったやり方も考えられないかなと思って、保護者の声も聞いてみてほしいなと思</p>

	<p>いました。</p> <p>それから、一般の方からも良い取組だという声がほとんどなんですが、やはりその中には市教育委員会推薦図書とあるとプレッシャーを感じるという声もありました。ですので、こちらでは良かれと思って出していることも、プレッシャーとして感じている方もいらっしゃるということで、やはり生の声を聞いてみてほしいと思っていました。</p> <p>先ほども辞書はどうかとか、いろんな声があったと言っていました。やはり1年目の取組ですので様々あると思いますので、いろいろな声を聞いていただきたいなと思っています。よろしく願いいたします。</p>
<p>嘉瀬教育指導課 実践支援GL</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>今のマイブック推進事業について、他の委員から何かございますか。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>今年度が最初の試みですので、私もいろいろな書店さんを廻ってみました。それぞれ対応の仕方、PRの仕方は異なっていますが、話を聞くと保護者の方と一緒に来るようになったと、私はそれだけでもしめたものだなという感じがしています。ただ子どもが1人で行って漫画本を買ってくるのではなくて、保護者の方と一緒に本を探すというのは1つの効果かなと思っています。先ほどの話の中にあつたお釣りの問題とか基準を明確にしてほしいというのは、来年度以降いろいろ検討されるということですので、その辺の改善も含めながら、うまく定着してくれればいいなと考えています。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>書店さんからの意見で「おつりが出ないということについて、学校でもっと子どもに指導してほしい」とありますが、子どもだけで本を買いに行ったとしても、お金を持たせる、クーポンだけ持たせるというのは親のほうですので、クーポンだけしか持っていかなければお釣りが出ない状況になりますし、その金額にプラスしてお釣りが出ないように持たせるかというのは保護者の問題になってくると思いますので、保護者に対してのもっと丁寧な説明なり学校側からの文書なり、何かの折には保護者に向けて先生方からお話いただくという機会をもっと持ってほしいなと思っています。</p> <p>アンケートに関しては、私も保護者の方々からも是非とってほしいなと感じております。当初この事業が始まったときにも、やはり築瀬委員さんと同じように、私も身近な保護者の方々からいろいろな質問をいただきました。やはり本の選定にしてもそうですが、いざやってみると、ここはどうなんだろうというような疑問を持っておられる保護者の方々も多いと思いますので、是非次回に向けていい</p>

武輪委員長	形でまた進めていただきたいと思います。
築瀬委員	では、他のことについて、皆さんございますでしょうか。
沼館教育指導課 指導主事	9ページの16番の八戸市防災教育副読本作成の経過について、情報として教えていただきたいんですけども、作成委員というのはどういった構成になっているのでしょうか。例えば校長会からどういった担当の人を1名とか、生徒指導教育研究会から1名とか、そういう形で構成を差し支えない範囲で教えていただきたいと思います。
沼館教育指導課 指導主事	校長会からは小学校の校長会から1名、中学校の校長会から1名選んでおります。小学校下学年・小学校上学年・中学校というふうに3つのグループに分かれていまして、それぞれ小学校では教頭先生にチーフをお願いしています。中学校も教頭先生にチーフをお願いして、各グループ4人の構成で作成している途中です。
築瀬委員	そうすると4人ずつ3つのブロックということですか。
沼館教育指導課 指導主事	はい。
築瀬委員	資料に合同ブロック研修会というのがあったのですが、このブロックというのは今の下学年・上学年・中学校というブロックというふうに解釈してよろしいですか。
沼館教育指導課 指導主事	はい、そうです。その3つのブロックです。
築瀬委員	分かりました。この合同研修会とか全体研修会では、主にどういったことが話し合われたのでしょうか。
沼館教育指導課 指導主事	まず1回目は防災教育副読本の作成の狙いを共通理解しまして、2回目では具体的にどのような中身にしていくかということをお話ししました。共通して言えるのは、ただの読み物ではなくて、考えて書き込んでいく、そして自分で考えて自分の命を自分で守る力をつけさせるための副読本。ですから、副読本というよりも副読ノートというような形で作っていきましょうということで考えていました。

	<p>それぞれの発達段階に応じて内容が変わってきますので、例えば下学年ですと、家の中にいるときに地震が起きた場合どのような対応をすればいいとか。中学校では避難するだけではなくて、避難所に避難した際にどのようなボランティア活動ができるとか。そういったことを考えられる手立てになるような防災副読本ということで話し合われていました。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございます。以前聞いたときには、3分冊からなる書き込み方式ということでした。副読本というよりは防災ノートみたいな形ということで、とても良いなと思いました。</p> <p>それから、中学生はいざ災害時には一大勢力といいますか、ボランティアの中心になる可能性があるということがよく言われていて、地域の防災訓練をやっても、やはり最近ではそういった声が非常に大きくなっています。私が住んでいる柏崎地区では、第三中学校が毎年引き受けて、総合訓練と地域の訓練と学校の避難訓練を一緒にして、毎年秋に実施しているんです。そのときに中学生がどれだけ地域の人のために、避難した人のためにやれるかということもやっているところですので、とてもいい試みだなと思っています。期待していますので頑張ってください。</p>
<p>沼舘教育指導課 指導主事</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>3ページの学校教育課のところで、八戸市奨学生についてお聞きしたいんですが、一般奨学金のところで高校の在学採用、大学の予約採用は募集人員に対して応募者数が多くなっています。一方、大学の在学採用、専修学校の在学採用のところが募集人員に対してちょっと少ないかなと。特に専修学校の方は応募者が1人と少ないんですが、この背景や理由は何か考えられますか。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>今、奨学金の採用の面接を盛んにやっているところでございます。</p> <p>私たちの方でも募集人員に対して応募者が少ないということで、検証をしている最中です。結論から言いますと、具体的な要因が何なのかということまではまだ漕ぎ着けていないんですけれども、1つには奨学金を借りるための条件があります。例えば、学力の面とか、あるいは所得の制限とか、そういったものがあるんですけれども、そういった部分も関わりがあるのかなと思っています。ただ、今朝も話題になったのは、学力の面でいうと、平均の点数になるんですけれども、他の奨学金に比べてもそれほど高いわけではありません。よって、学力の面ではなく所得のところなのかなという見通しは立っていますけれども、これからもう少し具体的に検証してみようと思っています。</p>

	<p>ただ、今、ご存知のとおり、国の方も貧困対策の1つとして給付型の奨学金というものを奨励するような時代になりましたが、現在当市の奨学金のほとんどが貸与する奨学金です。特別奨学金というのものもあるんですけども、これも一定の条件をクリアすれば償還不要という奨学金なんですけれども、そういう給付型についても少しずつ検討していく段階ではないのかなということも話題に上がっているところです。</p>
大庭委員	<p>ありがとうございました。実際に大学や専修学校に進学している子どもたちの中にも経済的な問題で途中でやめたという話も聞いたりするので、こういう制度をもう少しうまく使ってもらえればなということで質問してみました。</p>
齋藤学校教育課長	<p>もう1つ、我々のコマーシャルがまずいのかなというところも検証したんですけども、今現在、市の広報と市教委のホームページ、それぞれの高校・大学等に通知を出して募集を募っている状況であります。よって、この広報については十分行っていると考えてはいますけれども、そういったところも今後もし課題があるのであれば改善していく余地もあるのかなと考えていました。</p>
大庭委員	<p>あるいは、高校側がもう少し積極的な活用とといいますか、状況をきちっと理解した上でこういう制度もあるよというような紹介の仕方ということもあるのかなと思いました。</p> <p>それからもう1つ、5ページの手作り弁当のところに関連して、前にお聞きしたときには、持ってこない生徒は本当に苦しくて持ってこれないというよりも、忘れてくる生徒の方が多かったという話でした。そのときに、できれば子どもたちがただ保護者が作ったものを持ってくるのではなくて、何か自分が関わって、手作り弁当の日を親と子で一緒に考える機会にしてもらえればなということを考えて質問しました。それに対応したのかどうか分かりませんが、小学校の部分で生徒が手作り弁当に関わるように工夫した学校、あるいは中学校でも生徒が手作り弁当に関わるように工夫した学校ということで出していただいたのを見ると、それなりに児童生徒も関わった形でこの日を考えるということで進行しているのかなと、こういうところは良い試みだなと私自身も思いましたし、これからも継続しながら生徒の意識を拡大してもらえればいいなと考えています。</p> <p>もう1つ、14ページの総合教育センターのところで質問です。3番の教育相談・適応指導教室事業の2つ目に、「発達行動にかかわる相談は、全相談回数115回」とありますが、この辺のところは全国的にも増加していると聞いています。発達障害の認識が広まってきたということも影響しているとは思いますが、これは八戸市においても増加傾向と考えていいですか。それともあまり変わっていないですか。八戸市としてはどうなんでしょうか。</p>

中奥総合教育センター 一指導主事	<p>八戸市においては、実は増加傾向にはないです。八戸市では3年前から指定講座ということで特別支援に係る講座を設けていまして、全小・中学校の教員に受けていただいています。そういう事前対策や、その下にありますけれども5番の特別支援教育推進事業の中の専門指導員を配置いたしまして、その中で教育相談・巡回相談・就学相談も行っておりまして、早期の気づきを促すことができるようになってきております。ですので、増加というよりは横ばい状態というところになっています。</p>
大庭委員	<p>ありがとうございます。5番のところで、5名の専門指導員ということも書かれていますけれども、もし八戸市も増加傾向にあるのであれば、その専門的に対応する職員をもっと増やす必要があるとか、そういう課題があるのかなと思って質問しました。今のところはそこまでは必要ないんですね。</p>
中奥総合教育センター 一指導主事	<p>昨年度3名だったのをやはり必要な人員であるということで5名に増やしていただきました。今後についてはまだ検討中です。</p>
大庭委員	<p>はい、ありがとうございました。</p>
築瀬委員	<p>15 ページの総合教育センターの7番の小学校理科観察実験アシスタントのところで、22 小学校で第1 四半期活用されたという報告が載っています。4月の定例会でもお話ししたんですけども、各学校の実態とか要望に応じて柔軟に対応していただきたいということで、そのようにしていきますというお答えをいただきました。私が学校訪問に同行させていただいた折に、特別支援も含めてアシスタントさんの様子を拝見させていただいたり、校長先生などの声を聞いたりしたんですが、この理科観察実験アシスタントについてはとても感謝していました。それからアシスタントさんにも直接お会いしましたが、みんな明るい方でこれなら良いアシスタントができるなと思ってきたところなんです。そこで、具体的に第1 四半期において、作業や活動の内容で特徴的なことや、良い取組があったら教えていただきたいと思います。</p>
木村総合教育センター 一所長	<p>まず、委員さんから要望がありましたとおり、動くときには学校の実情、要望に応じて、8時から 16 時までの6時間というのがありますけれども、学校では4時間でいいというときもありますし、学校の事情に応じて対応しました。その中で特に喜ばれたのは、3人をベーススクールに配置して要望があった小学校へ個別に派遣するのが基本なんですけど、4月と5月に理科室の準備がまだ十分に整っていないところについては3人が一緒に行きました。そうすると1人で長い時</p>

	<p>間作業しているよりも、3人で一気に片付けてしまうとか、お互いに協力しながら仕事をすることによって、思った以上に理科室の整理、実験に対する準備等が早く済んで、授業での活用が滞りなくいっているということを計画訪問を通していろいろな学校から聞いていました。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございました。これからも良い取組事例をメモしていきながら、是非各学校に活用の促進を図っていただければ有り難いなと思っていました。よろしくお願いします。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>手作り弁当の話に戻りますが、6月9日に手作り弁当の日が実施されたということで報告されていますが、今までですと年に3回、学期ごとに手作り弁当の日が設けられていたと思います。今年度は6月と10月の年2回ということで学校の方からありまして、今まで3回だったのにどうして2回になったのかなということで私自身で調べましたら、今まで手作り弁当の日を行っていた月曜日は今年度は2月9日になりますけれども、その日が今年度は災害時食事体験に充てられるということをお聞きしました。保護者の方からすると、もしかすると手作り弁当の日の回数が3回から2回に減って楽になって良かったなという声もあるかもしれませんが、私からするとせっかくこの手作り弁当の日というのは子どもたちにも非常に良い体験の日だと思うので、年3回というのはずっと継続してほしいなと思っておりました。手作り弁当の日は3回で、その災害時食事体験はそれとは別の日を改めて設けていただくのはどうかなと思っているんですが、もしかすると保護者の方を敵にまわしてしまうかもしれません。私も今年度で義務教育の子どもが終わってしまいますので、もう今年度で母親としての手作り弁当の日は卒業するわけですが、私は3回は欲しいなという思いを持っているので、そこはどうお考えかなということをお聞きしたいと思っています。来年度は3回にして災害時食事体験は別の日にするか、この手作り弁当の日は2回という形で進める方向でいくのか、お聞きしたいと思っています。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>この手作り弁当の日も今年度で16、17年目になりまして、この事業もだいぶ定着してきました。先ほど大庭委員さんからもありましたとおり、当初はただ保護者が弁当を作って持たせるという形で始まりましたが、今は各家庭でも子どもたちと一緒に弁当を作ったり、あるいは中学校では家庭科の教科と連携して手作り弁当を自分で作ってみるとか、そういった様々な取組に発展してきております。よって、大変意義のある事業ではないかと考えます。</p> <p>そこで今お話があった部分ですけれども、大方は手作り弁当の日は大事だという方々がほとんどだと思います。ただ、先ほど持参しない子どもの話が出ましたけれども、大部分は忘れてきている子どもなんです。ただ、中には弁当を作って</p>

	<p>もらえない家庭というのもあるんです。よって、やはり学校給食の意義というのは大変大事だなということを、我々担当課としても重く受け止めているところです。また、持ってきてはいるんですけども、それが果たして手作り弁当であるかどうか。中にはコンビニのものを詰め替えて持ってきているとか、そういった子も現実にはあります。そういった中で、3回4回ともっと回数を増やしていけばということも1つはあるかもしれないんですけども、そういうことに対応できない家庭もまだあるということがまず1つです。</p> <p>それから、当初は1学期に1回は保護者と一緒になって弁当を作るという試みだったんですけども、今の子どもたちは部活動の関係で土日に試合があると、その都度弁当を保護者が作ってくれているという実態もあるようです。よって、これは小学校も中学校も、これ以上に保護者が子どもに弁当を作る回数が多いのかなということも考えていました。</p> <p>よって、当初学期に1回であったものを、3学期だけについては「ホッとするカレー」を提供するというので、いわゆる防災教育の一環としてやるということも含めて、1学期と2学期は手作り弁当ということで今年度からスタートした経緯がありますので、しばらくはこの状況でやってみてご意見等いただきながら改善する必要があるれば検討して参りたいと考えております。</p>
武輪委員長	はい、ありがとうございました。
岡本委員	今のに質問ですけども、そもそも17年前に手作り弁当の日というのを作つた目的というのは何だったのかお聞きしたいと思います。
齋藤学校教育課長	これは、手作り弁当を通じながら親子のコミュニケーションを図っていくというのがスタートの一番の理由だったと思います。それがだんだんコミュニケーションを図ること以上に、今度は子どもたちが主体的になって弁当を作っていくということに変わってきたと思います。
岡本委員	<p>就学前の場合に、高校生や中学生と一緒に弁当を食べるという時間を持っているんですけども、そのとき5歳の子が隣にいた高校生に「お姉さんは誰が弁当を作ってきたの？」と聞いたそうです。そしたら、高校生はたまたま生活文化科という調理もやる学科だったものですから「お姉さんは自分で作ってきたよ」と言ったんです。そうしましたら、その5歳の子は「お姉さんにはお母さんがいないの？」というふうに答えたということがあるんです。その高校生が何を思ったかという、やはりお弁当というものは非常に大事なものだということを理解したという感想を後でもらいました。</p> <p>なぜ教育委員会でこういう日を定めてやっているかというのは、目的が変わっ</p>

	<p>てきたならそれはそれでいいんですが、共通理解はすべきだと思いますが、最初の目的がそういう目的であれば、作る回数とか機会が増えたとかそういう理由で減らすのは少し筋が違ってくるので、そこは曲げないで、何のために教育委員会がそれをやっているのかということとは続けていったほうがいいのではないかなと思います。それを変えるのであれば、また考えて、そういう機会が増えていったからそれは目的が変わってきているということをするべきではないかなというふうに、こうなったからこうなったという方向ではいかがなものかなと、今のやりとりをお聞きしている中では疑問に思うところもあります。ではこういうふうなことになるれば辞めるのか、回数が減るのかということになってしまうので、何のためにこの3回というのを設定したのかということをもう一度考えて、忙しいとかいろいろ理由はたくさんあるんですけども、それはそれでまた別の話になってくるので、子どものために何がいいか、大事なことからやってきたんだということは説明できるようにしないとぶれていくと思いました。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>この手作り弁当の日に関しては、母親としますと、最初に教育長からありましたように八戸市は給食が大変充実していると。他の地区では、いわゆるミルク給食と言われている牛乳だけの給食で、毎日お弁当を持って行かなくてはいけないということで、保護者の方は小学校でも中学校でも毎日お弁当を持って行っているわけです。そういう意味では、私たち八戸市の保護者は大変恵まれているということを知らない保護者が多いということも事実なので、今の岡本委員さんのお話もそうなんですが、保護者としてもいろいろな形で今の状況がどれだけ恵まれているかということをお聞きするなり、分かる事も必要だと保護者として思っております。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>11 ページから 13 ページにかけてですが、13 ページに是川縄文館のボランティア養成講座というのがございます。そして、11 ページから 12 ページにかけて様々な史跡や種差海岸について書かれてありますが、種差海岸が国立公園に指定されて観光ボランティアガイドというものについて、社会教育課としてボランティアガイドの養成ということをお聞きしたいなと思っております。観光客や種差に足を運んでくださる方が非常に多くなって、ボランティアガイドの要請が多いという話を伺っております。実は私のほうにもボランティアをどなたかご存じないですかという問合せをいただいたこともあります。八戸市として、種差に関して観光ボランティアガイドの養成を考えているかどうかお聞きしたいなと思っております。</p>
<p>小保内社会教育課 文化財GL</p>	<p>ボランティアにつきましては、取組の具体的な内容までは分からないのですが、観光課が主体となってやっているはずですが、</p>

	<p>あるのと、それから元々ガイドクラブという団体があります。今は確かに人が足りないので、いろんな団体が連携して案内できないかということで、研修会を開いたりしている最中だと伺っております。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>そうしますと、観光と付くと観光課になってしまうというような認識をしてしまうんですけども、観光ではなく、例えば植物についての学術的なことであれば社会教育課の担当という範囲になるのでしょうか。</p>
<p>小保内社会教育課 文化財GL</p>	<p>ものすごく縦割りの言い方になって申し訳ございませんが、文化財の方では植物を指定しているわけではないです。景観全体を文化財に指定していて、それに対して自然公園というのは具体的に植物の種類を指定しています。それで植物の専門的な案内ということになった場合も、国立公園になる前は県立ですから県、今は国ということになるんですけども、やはり実際に案内することができる方は、今のところ数は少ないというのが現状です。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>縦割りというか、その課ごとということは十分分かりますが、横のつながりも是非いろんな形で見ていただいて、社会教育課としても観光課と連携していろいろな形で進めていただきたいと思います。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>他によろしいでしょうか。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>では次に(2)に移りたいと思います。「平成 26 年度第 2 四半期の主な事業予定について」委員の皆さんからご質問等ありましたらお願いいたします。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>報告と予定と一緒に併せてお聞きしたいんですが、教育指導課の幼保小連携推進事業に関してですが、これは何年も前から進めていまして、その内容がいろいろ私自身も報告書等が各小学校から上がってきておりますので拝見しております。グループごとの話し合いを行うということで内容的なことは反省とかいろいろあるとは思いますが、今後の展開についてももう少し考えていくべきだなと日頃より思っておりますので、これを機会にお話させていただきたいと思います。</p> <p>この定期的にいただいている冊子を読ませていただいているんですけども、今まで就学前教育についてほとんど出てこなかったんですが、今回の号には東大の秋田喜代美先生という方が書いていて、就学前教育で何を育てるのかというのは学びに向かう力を育てると書いてありまして、これは是非読んでいただきたいなと思っています。大変良いことが書いてありまして、ようやくこの冊子にも就学前教育も教育なんだということで、国として考えるべきことなんだということが理解していただけてきたのかなと思っています。これがなぜここに出てくるか</p>

というと、子ども子育て関連3法というのが上がってきていまして、子ども子育て支援法の中には、平たく言えばどの子どもであっても良質な就学前教育を受けられるように市町村がしなければいけないということが書いてあります。そこに狙いがありまして、どの子どもであっても第一義的責任は親にあるんですけども、その教育の質が大事だと、それも良質でなければならないということが書いてありまして、そういうことが表に現れるようになってきて大変嬉しいことだなと思って読んでいたんです。

そういったときに、一番近いところでは幼保小連携の中で取り組んでいくことが大事なのかなと思っていまして、わくわくいっぱい1年生のパンフレットも何年か続けて出していただいています。挨拶は就学前であっても小学校であってもするんですけども、その中身がもしかしたら違うのではないかと、返事をするとか、ハサミを使うとか、友達との関係性とか、それが小学校と就学前では表現は同じですが、中身が違うのではないかと、これをもう少し考えていく必要性が出てきているのではないかと思います。八戸市の場合には他の市町村よりも幼保小連携については格段に進んでいることは会議に出ていても良く分かりますし、県の中でも一歩先を行っている認識はしています。八戸市の場合にはその次に行けるのではないかと、このように思っています。教員ベースで話し合うときに何をもちが話し合うかということ、やはり現場を見ることというのは非常に必要で、小学校の先生にも同じ挨拶なんだけれども就学前は何が違うんだろうとか、その辺りを見るということも教育委員会が進めていただいてもいいのではないかなと思っています。幼保小連携が今後どのように展開していくのかということ、評価のところでも出ておりますけれども、次の段階ということもそろそろいい頃合ではないかなと思います。

この関連3法に関しまして、その支援法の良質ということを八戸市の中で考えるのも、こども家庭課もちろん子どものことをしておりますし、制度のことはしているんですけども、果たしてその中身については教育委員会も共にするのが八戸市の場合には最善なのか、どのような形になっていくのがふさわしいのかも含めて検討していく時期ではないかなと思っています。

先に私の意見を述べてしまった後に担当の方の意見を聞くのは大変失礼な言い方だとは思いますが、それにつきまして何か次の段階というのがあればお話を聞きたいと思っています。

出貝教育指導課  
指導主事

これまで幼保小連携の講座に関しましては、幼保小連携に関する先生、今年度であれば文科省から津金先生を呼んで、そのあと幼稚園、保育園、小学校の先生方と分科会を作って話し合いをして参りました。これまでではどちらかというと、例えば小学校の先生はどのような立場で子どもを見ているのかとか、それぞれの教

	<p>員、保育士同士の人間の交流が一番だと思っていました。そこから何事もスタートするかなと思って、こちらから話題は提供するのですが、とにかくざっくばらんに話をしてくださいという形でここ数年進んで参りました。</p> <p>そこから出てくるアンケート結果で一番大きいのは、昨年度も1時間近く時間をかけて分科会をやっているんですが、幼稚園、保育園の先生方から見ると小学校はこういう考え方で子どもたちに接しているんだと、我々が教えてきた子どもたちはこう見ているんだというのが分かって、次の段階に行こうと思うと時間が無くなるということでした。今年度も同じように上がってきていましたので、そろそろ教員と保育士の先生の間としてのつながりから、先ほど岡本さんがおっしゃったように次の段階に進んで、共通的に何か項目を設けて、それに向かってやっていきませんかという次の段階に入ってもいいのではないかと私も見ました。それが具体的にどういう形にしていけばいいのかというのは、これから課の中でも相談して進めていきたいと思います。それこそ、先ほどおっしゃっていただいたように、八戸市はどちらかと言うと県内でも一步リードして幼保小連携を進めております。そういう意味でも次の段階を見据えて進んでいきたいと思</p>
岡本委員	<p>ありがとうございます。</p>
築瀬委員	<p>6ページのマイブック推進事業についてですが、ここに載っている特別支援学校小学部の児童というのは、八戸市立の小学校と分けて配付したというふうに理解してよろしいでしょうか。</p> <p>それからもう1つ、特別支援学校の場合には障害種別によって選ぶ本の種類も変わってくると思います。そういった点については、推薦図書一覧のようなものを渡したのか、変えたのか、どうしたのか。あるいは障害種別の保護者に向けて同じようなチラシを出したのかなど、その辺を少し教えていただきたいと思</p>
嘉瀬教育指導課 実践支援GL	<p>特別支援学校の小学部に関しては、当初は八戸市立、あとは田代も含めまして八戸市教育委員会が管轄している学校というふうに考えていたんですけども、同じ兄弟で八戸市立の学校に在籍している子と、特別支援学校の小学部に在籍している子がいるというような当初予想していなかった状況が判明しましたので、協議をいたしまして、遅れて配付するという形になりました。</p> <p>買う本に関しては、それぞれの学校の教頭先生あるいは担当の先生と協議しまして、子どもにとって一番効果がある本を買ってくださいという話をしております。もちろん参考図書などではなく、子どもたちにとって一番良いものです。全盲の子どもはいないということでしたけれども、通常の本では難しい子どもの場</p>

築瀬委員	<p>合は、物語が録音されたDVDがあるようですので、そのようなものでも結構ですし、そこは学校の方で判断してくださいとお願いしているところです。随時、特別支援学校の方と連絡を取りながら進めているところです。</p> <p>よく分かりました。チラシ等書いているのは、市立小学校の子どもとは書いていないんですね。市内の小学生と書いています。ですから、市内の小学生であれば、県立であろうと国立であろうと八戸市立であろうと市内の小学生ということになると思うんです。税金を納めているのは同じなわけですから。そういった点で良かったと思います。いずれにしても、県教委所管の県立学校ということで、様々な判断とか手続き等あったと思いますが、ご苦労様でした。でも良かったと思って聞いていました。ありがとうございます。</p>
武輪委員長	他にございませんでしょうか。
武輪委員長	では次に(3)の「退任・新規ALTの交代について」事務局からの説明をお願いいたします。
嶋脇次長	(資料「退任・新規ALTの交代について」に基づき説明)
武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。
武輪委員長	新規の方と退任の方と照らし合わせて見たときに、退任された方が英国であれば次に新規でいらっしゃるのも英国の方、ニュージーランドであればニュージーランドからというように、どうしても国が同じという傾向になるのでしょうか。それとも、たまたまこういう形になったのでしょうか。
永井教育指導課 指導主事	基本的に退任するALTの国籍が、例えば英国が1名減ということになれば英国を1名追加するというような形で補充していくという考え方です。今現在18名おりますけれども、北米のカナダ・アメリカが5名ずつ、ヨーロッパの英国が3名、オーストラリアが3名、ニュージーランドが2名ということで、バランスを取りながら抜けたところに補充していくという考え方で進めているところです。
武輪委員長	ありがとうございます。八戸市全体としてバランスを考えていらっしゃると思いますが、長者には常に英国の文化なりそういうのだけが入って、北稜学区は常にニュージーランドの文化なりが入って、言葉ということで考えるとそれでもいいのかもしれませんが、文化なり言葉を通していろいろなことを学ぶときに、や

	<p>はり母国の部分が出ると思うので、シャッフルという言い方は失礼かと思うのですが、いろんな文化に接するとかいろいろことを学ぶということでは一度変わるというのもその学区にとっては必要なことかなと思いましたので、ご検討いただければと思います。</p>
永井教育指導課 指導主事	<p>ありがとうございました。参考にさせていただきます。</p>
武輪委員長	<p>それでは次に移ってよろしいでしょうか。</p>
武輪委員長	<p>では(4)の「平成26年度八戸市民大学講座（後期）について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
田中社会教育課長	<p>(資料「平成26年度八戸市民大学講座（後期）について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>それでは(5)に移ります。『『青少年のための科学の祭典 2014』八戸大会について』事務局からの説明をお願いいたします。</p>
木村総合教育センター 一所長	<p>(資料『『青少年のための科学の祭典 2014』八戸大会について』に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>毎年楽しみにしておりますこの科学の祭典も20周年ということで、毎年同じものもありますけれども、その年その年で工夫をされて子どもたちのために考えてくださっております、非常に有り難く思っております。今年も盛況に終わることをお祈りします。</p>
武輪委員長	<p>それでは、その他、事務局からの報告事項はありますか。</p>
武輪委員長	<p>事務局からは以上のごさいます。それでは最後にその他ですが、委員の</p>

武輪委員長	<p>皆様方から何かございますでしょうか。</p> <p>それではこれを持ちまして、平成26年7月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>(午後2時59分終了)</p>
-------	--